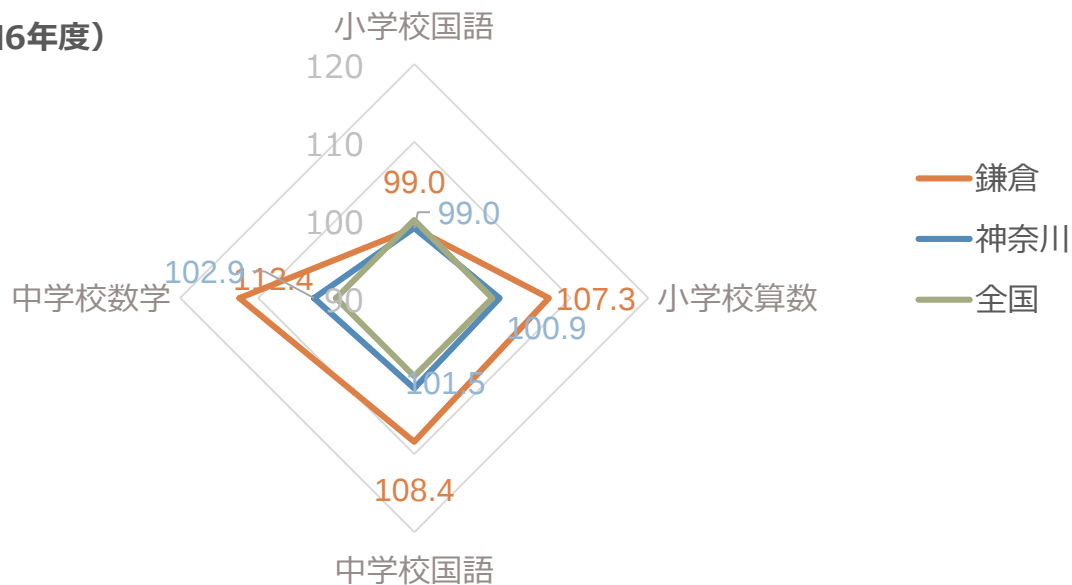


教科別のレーダーチャート①

- 鎌倉市の児童生徒の学力は全国・神奈川県と比較して小学校国語は同程度、その他は高い水準にある。バランスよく基礎・基本の習得とそれらを活用する力の育成が継続的に図られていると考えられる。

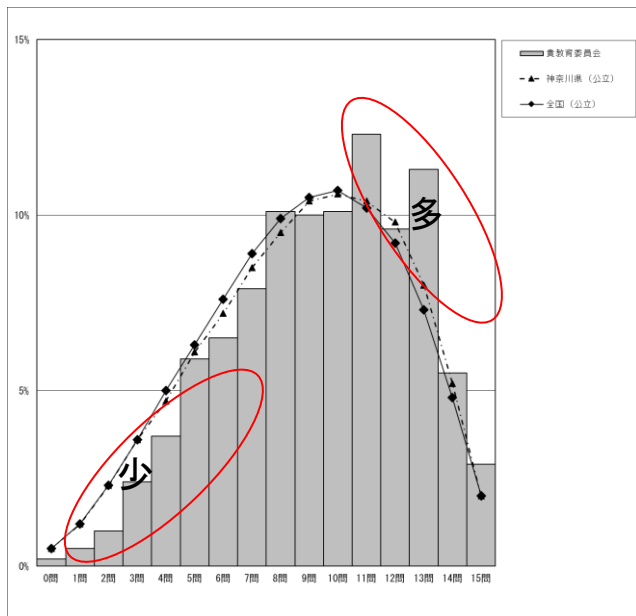
教科別全国学力調査結果（令和6年度）



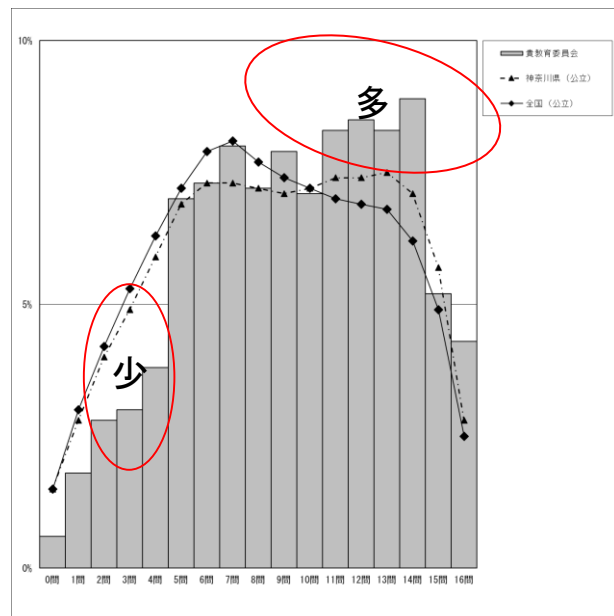
得点分布からの分析（中学）

- 鎌倉市の中学生は全教科において高得点者の割合が高く、低得点者の割合が低い。
学力は定着していることが窺える。

国語



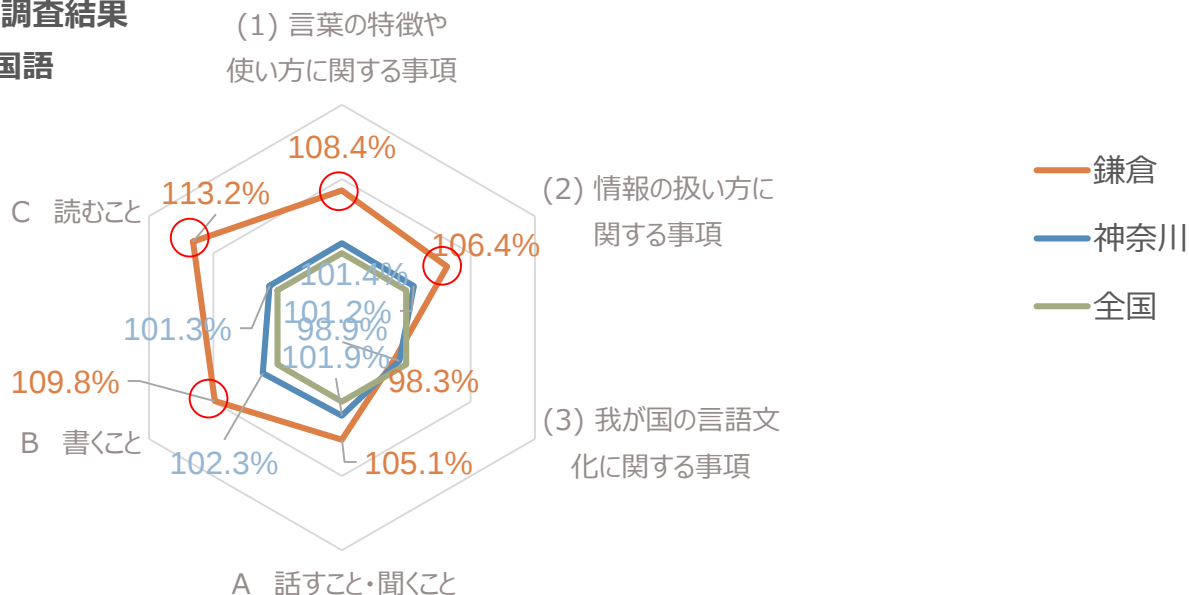
数学



中学校教科別のレーダーチャート①（国語）

- 国語では鎌倉市の中学生は全国・神奈川県と比較してほぼすべての分野で得点が高い。一方で我が国の言語文化に関する事項は若干低かった。様々な時代の言葉に触れる機会を持ち、現代の言葉の成り立ちや、古文や漢文とのつながりについても意識を深めるような学習に取り組んでいく必要がある。

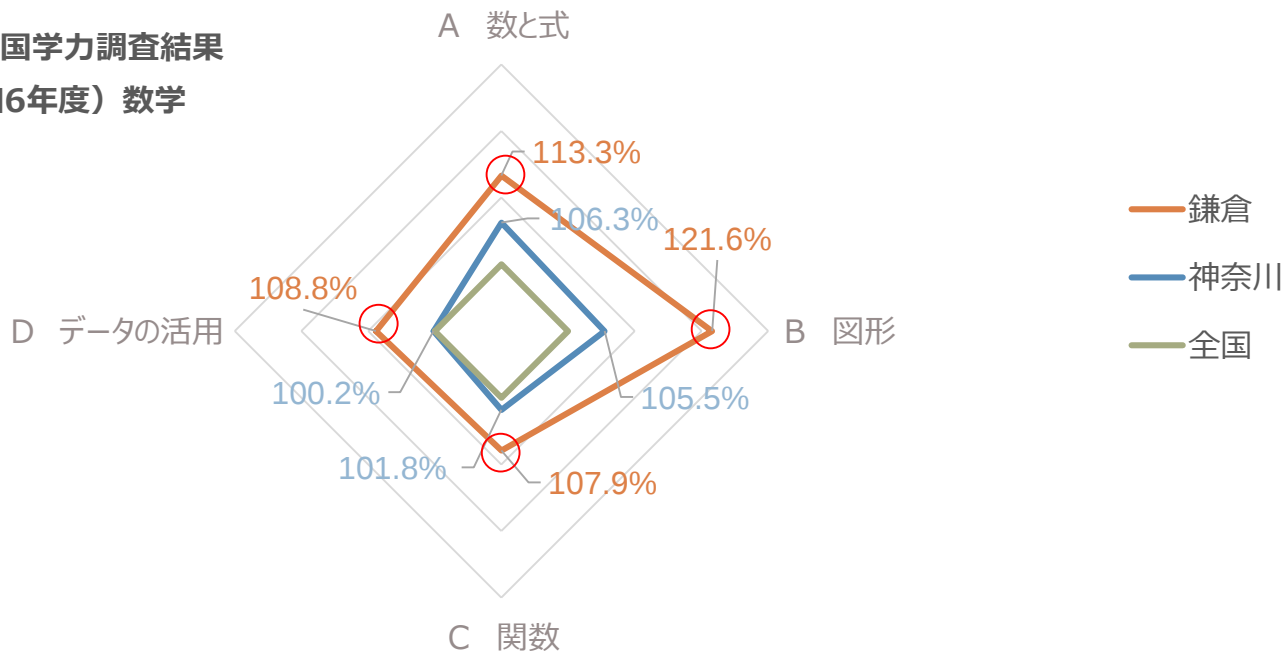
教科別全国学力調査結果 （令和6年度）国語



中学校教科別のレーダーチャート②（数学）

- 数学では鎌倉市の中学生は全国・神奈川県と比較して全体的に得点が高く、中でも図形の得点が高い。今後も学習内容を確実に定着させ、さらに充実した指導の工夫改善を進めていく。

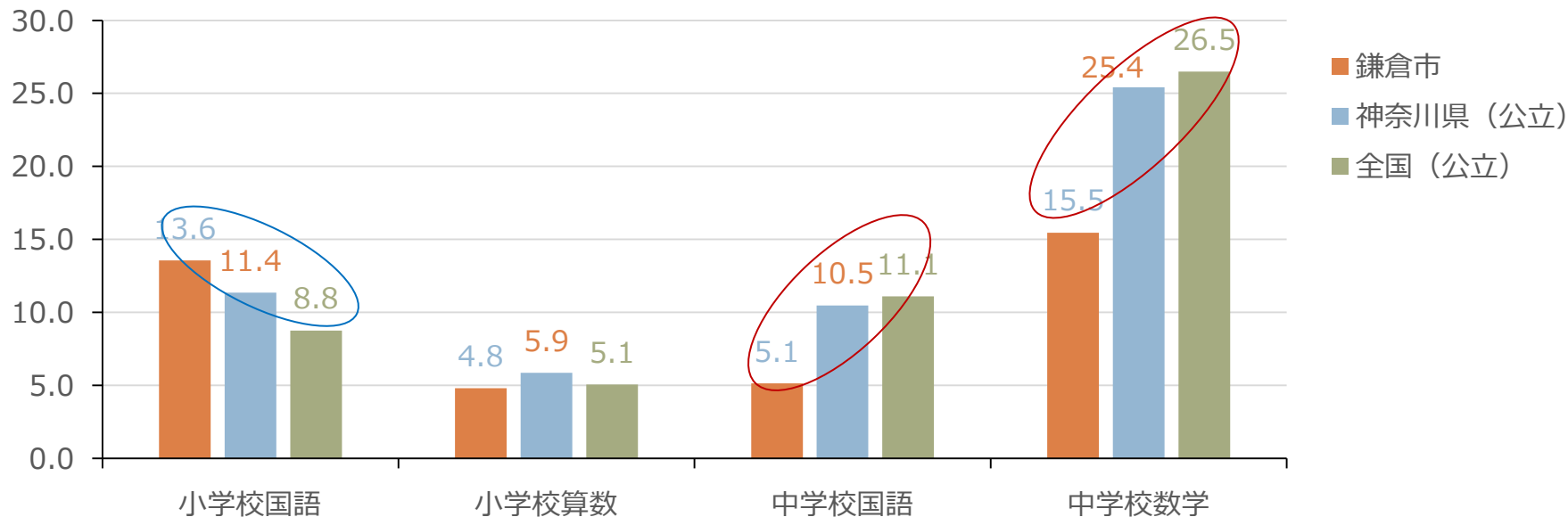
教科別全国学力調査結果
(令和6年度) 数学



活用問題における無回答率の状況

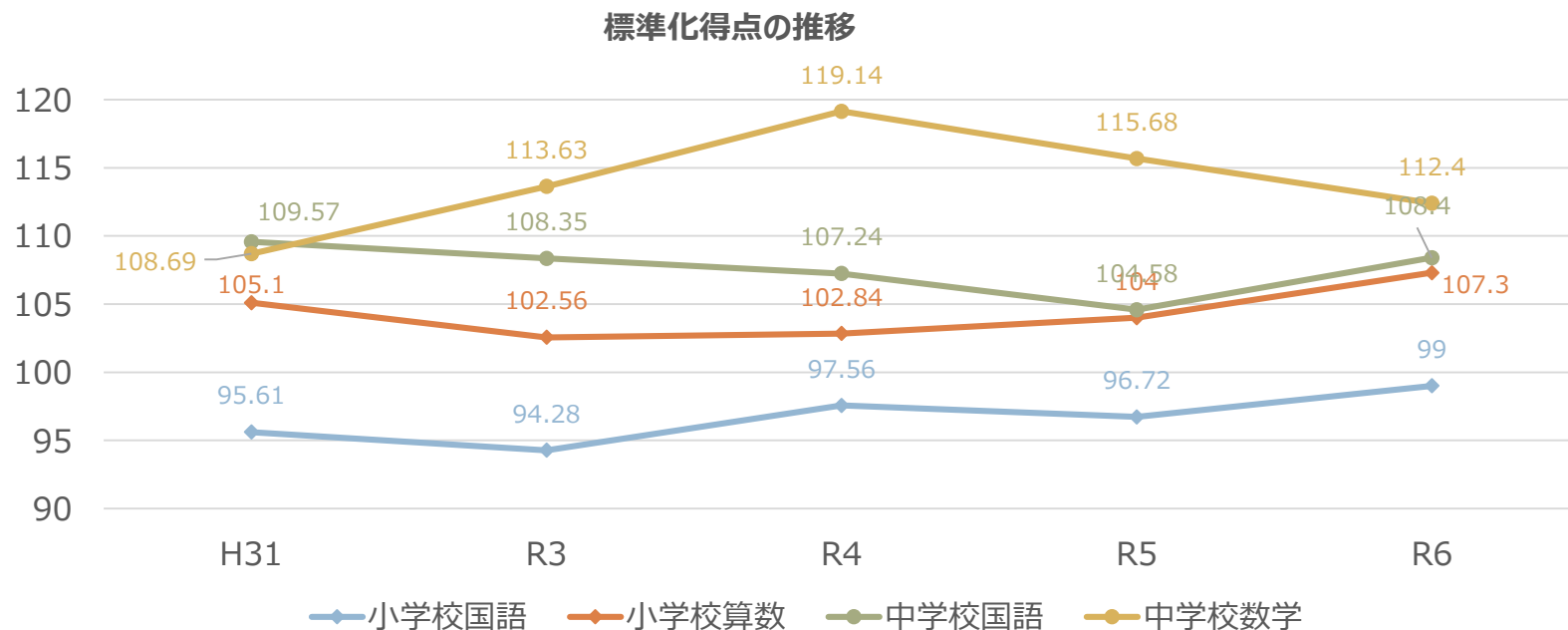
- 小学校国語で無回答率が全国・県に比べ高いが、中学生は全教科で無回答率が低くなっている。問題の内容を理解できていない児童が多くいることも考えられるので、一人一人をよく見取り、指導に生かしていくことが必要である。

記述式問題における無回答率の割合（％）



標準化得点(全国平均を100とした場合の鎌倉市の児童生徒の得点)の推移

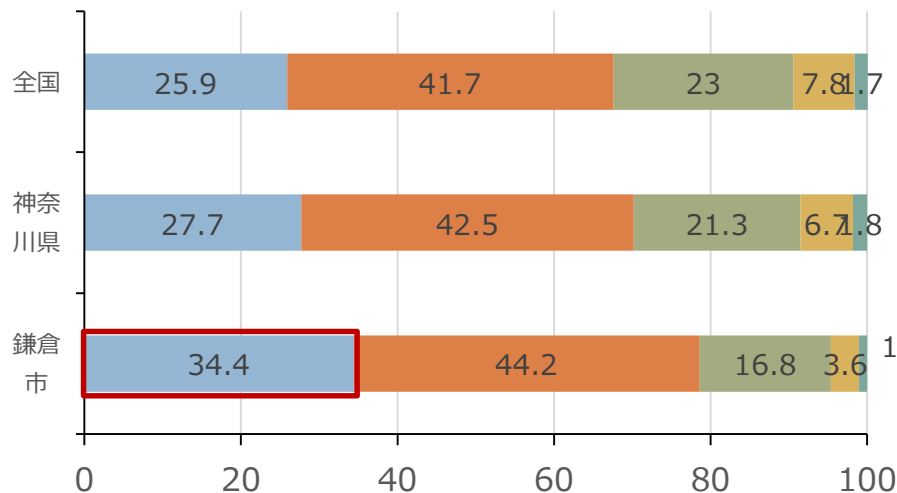
- 小学校国語が全国平均に比べ下回っているが、上昇傾向にある。引き続き、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」に係る日ごろの様々な言語活動を丁寧に行っていきたい。



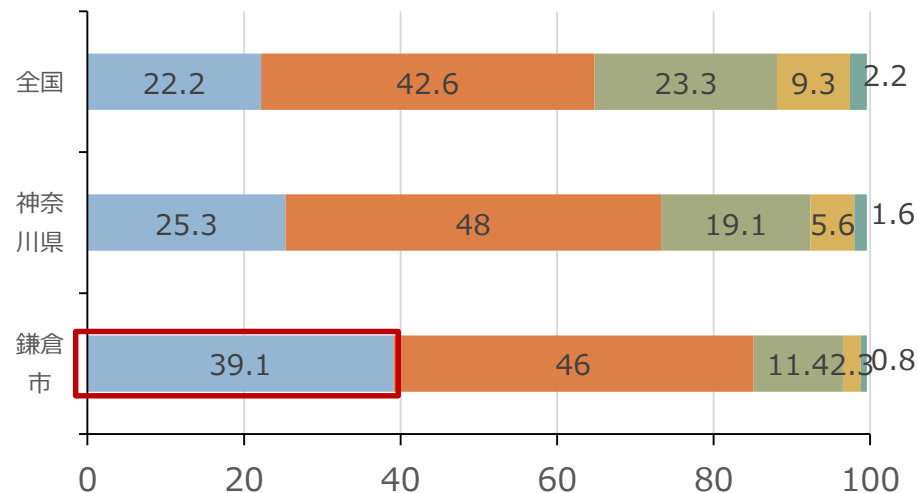
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の状況①

- 小中学生ともに、「当てはまる」と回答した割合が高い。児童生徒が主体となり、対話的な授業を引き続き充実させていくことが大切である。

自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか（小学生）（%）



自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか（中学生）（%）

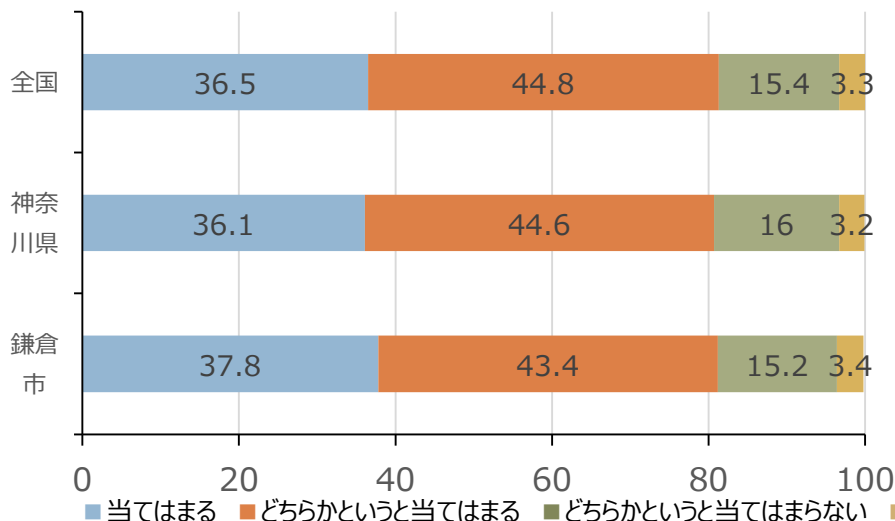


■ 当てはまる ■ どちらかという当てはまる ■ どちらかという当てはまらない ■ 当てはまらない ■ 考えを発表する機会がなかった

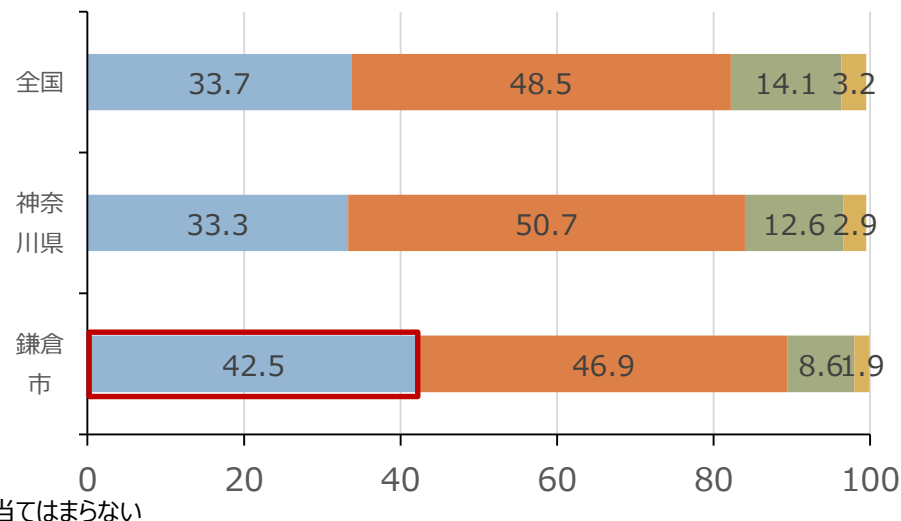
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の状況②

- 中学生では全国・神奈川値と比較して「当てはまる」と回答した割合が高い。主体的に取り組む学習活動が定着してきている。今後も引き続き充実した学習の時間の確保に努めていく。

総合的な学習の時間では自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる（小学生）（%）



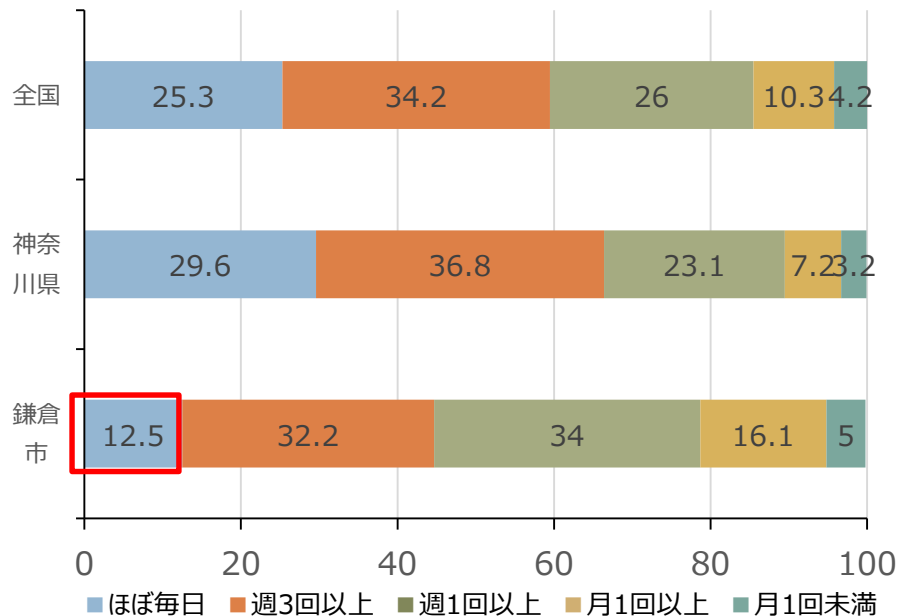
総合的な学習の時間では自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる（中学生）（%）



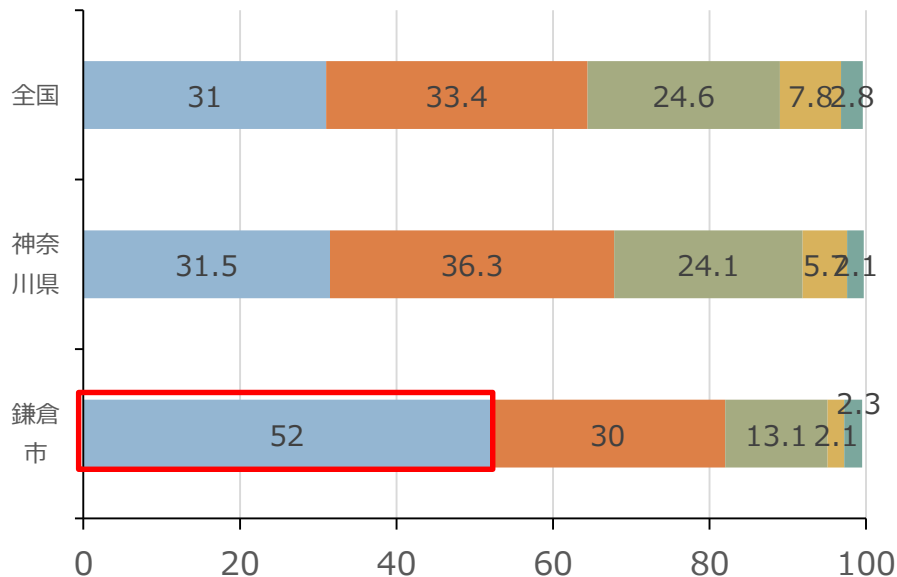
授業におけるICT活用の状況（子ども視点）

- 小学校ではほぼ毎日ICTを活用すると回答した割合が神奈川県・全国値と比較して低い一方で、中学校では約半数の生徒が活用すると回答し、積極的に授業で活用されていることが窺える。小学校でのICTの有効活用方法を検討していく必要がある。

小学校の授業におけるICT活用の状況（％）



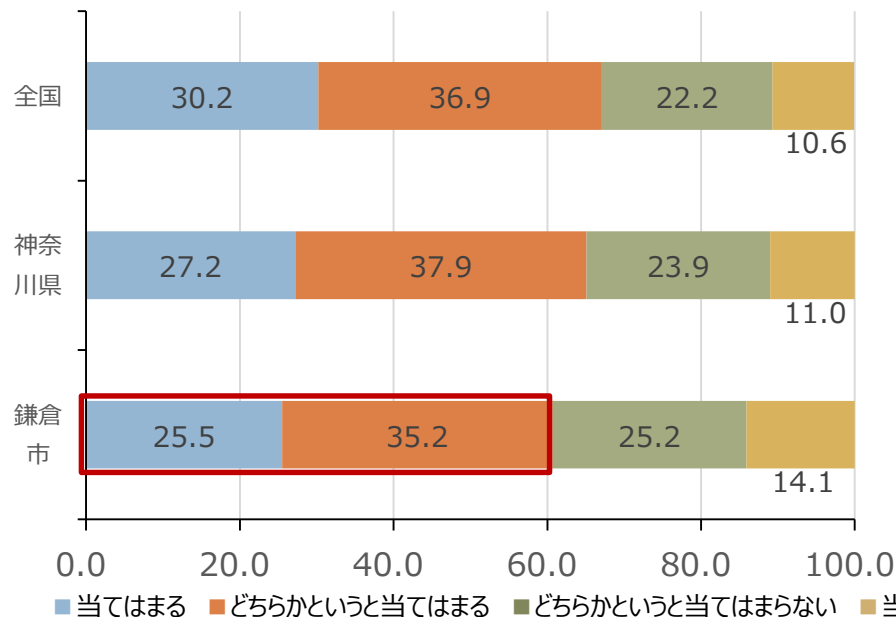
中学校の授業におけるICT活用の状況（％）



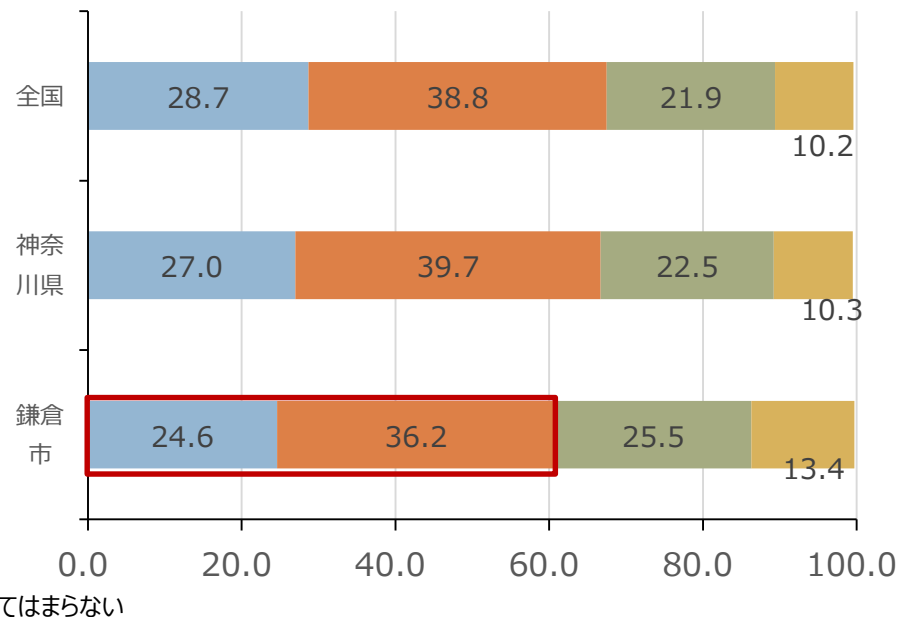
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できると答える子ども

- 「当てはまる」「どちらかという当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、全国及び神奈川県回答割合よりも低い点が特徴。子どもと向き合う時間の確保や支援について課題がある。

できると回答した児童の割合（％）（小学生）



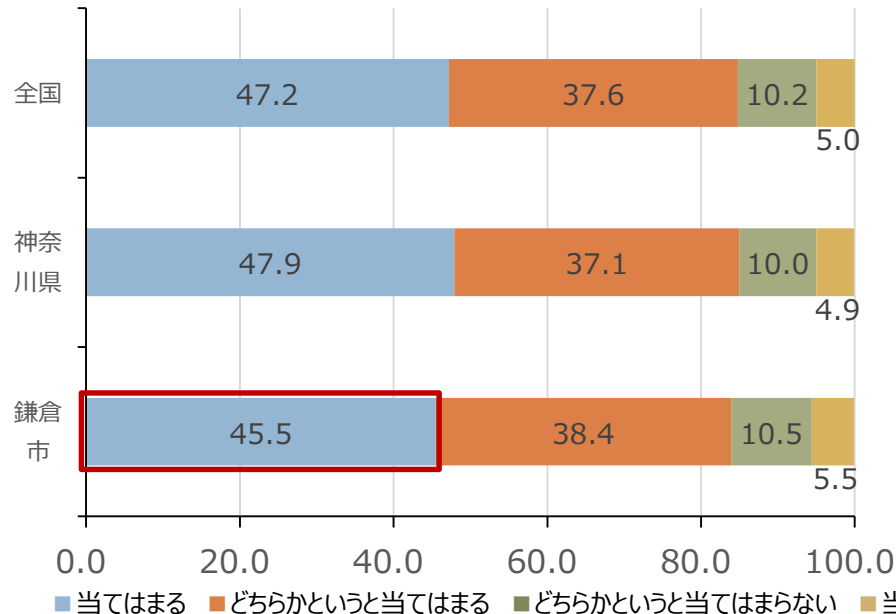
できると回答した生徒の割合（％）（中学生）



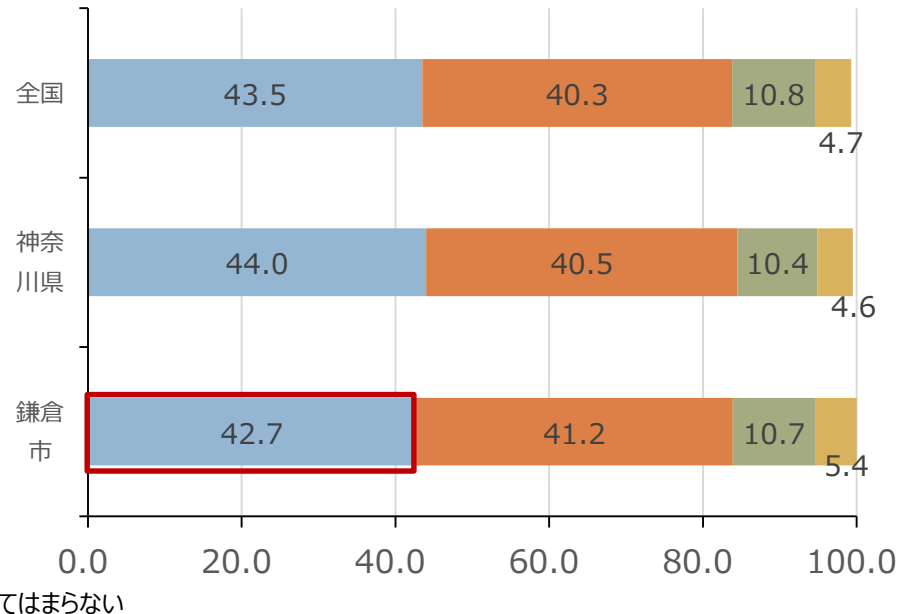
学校に行くのは楽しいと答える子ども

- 「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、全国及び神奈川県回答割合よりも若干低い。一人一人の見取りをより充実させていく必要がある。

楽しいと回答した児童の割合（％）（小学生）



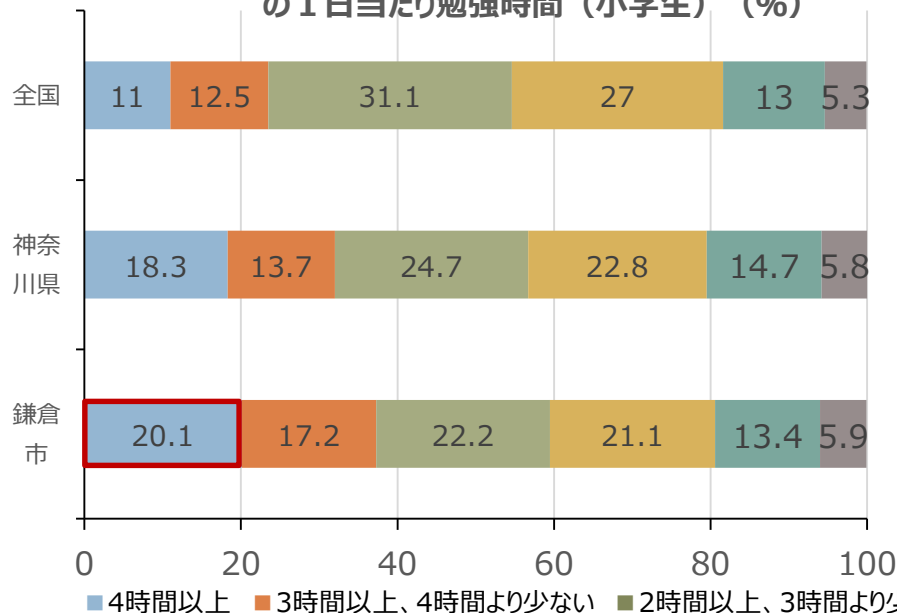
楽しいと回答した生徒の割合（％）（中学生）



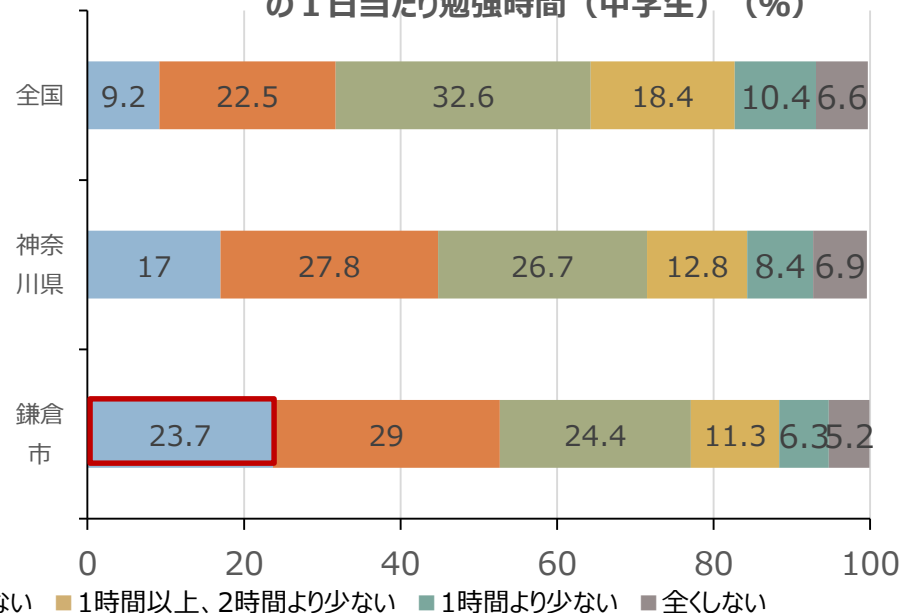
家庭での学習習慣の確立

- 小中学校ともに、1日当たり3時間以上勉強している児童生徒の割合が、全国・神奈川県と比較して高い。学習習慣が確立している点が窺える。

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、
の1日当たり勉強時間（小学生）（%）



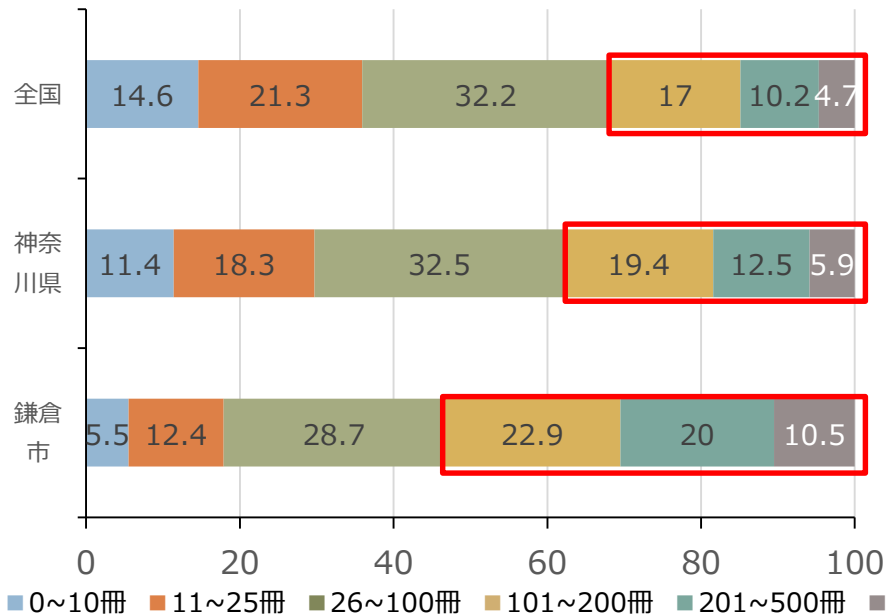
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、
の1日当たり勉強時間（中学生）（%）



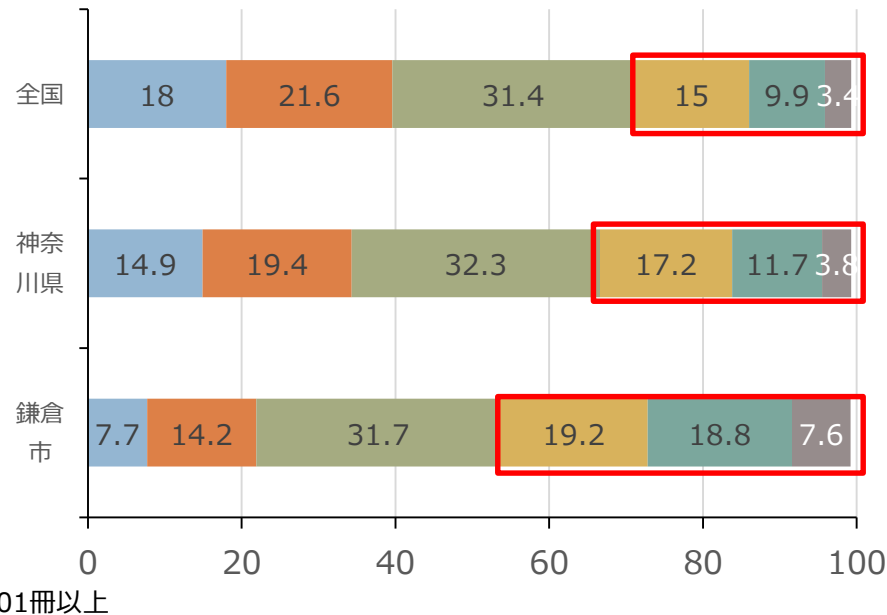
本と触れられる環境の充実

- 小学校、中学校ともに家庭における本の冊数が「101～200冊」「201冊～500冊」「501冊以上」と回答した割合が神奈川県・全国と比較して多く、日常から多くの本に触れていることが窺える。

小学校における家庭での保有本冊数（％）



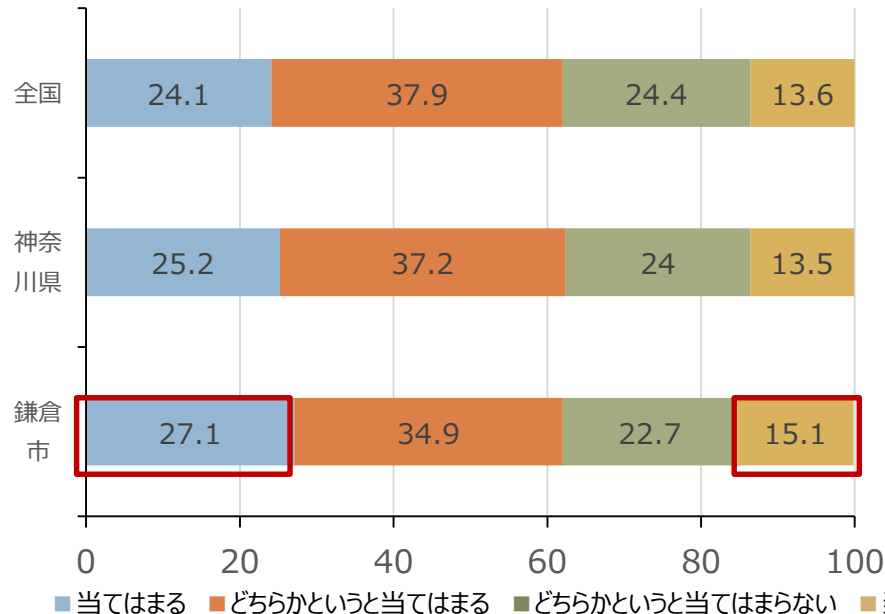
中学校における家庭での保有本冊数（％）



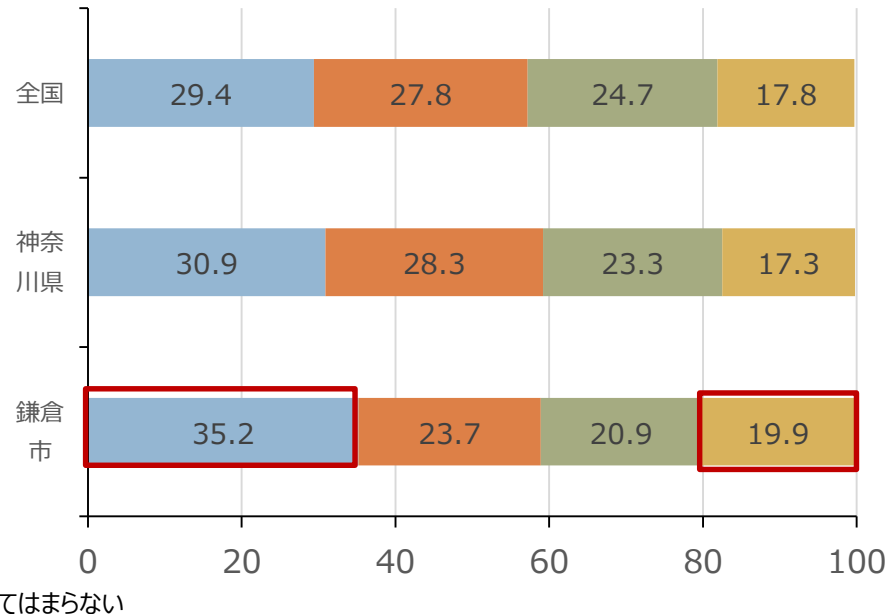
勉強が「好き」と答える子ども

- 「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、全国及び神奈川県回答割合よりも高い点
が特徴。一方で、「当てはまらない」と回答した児童生徒の割合も全国と比較して高い。
個に応じた指導のより一層の充実に努める必要がある。

国語(小学校) を好きと回答した児童の割合 (%)



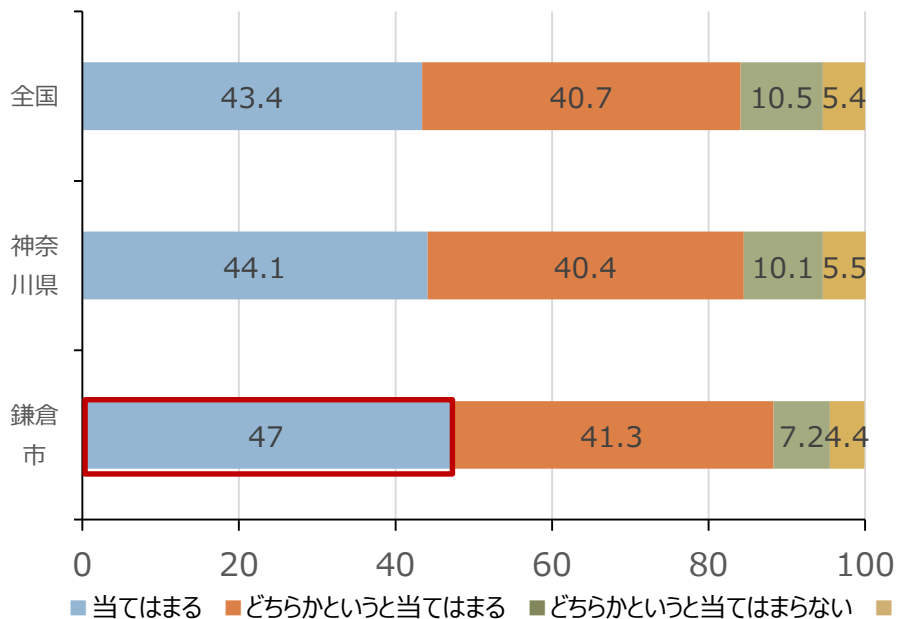
数学(中学校) を好きと回答した生徒の割合 (%)



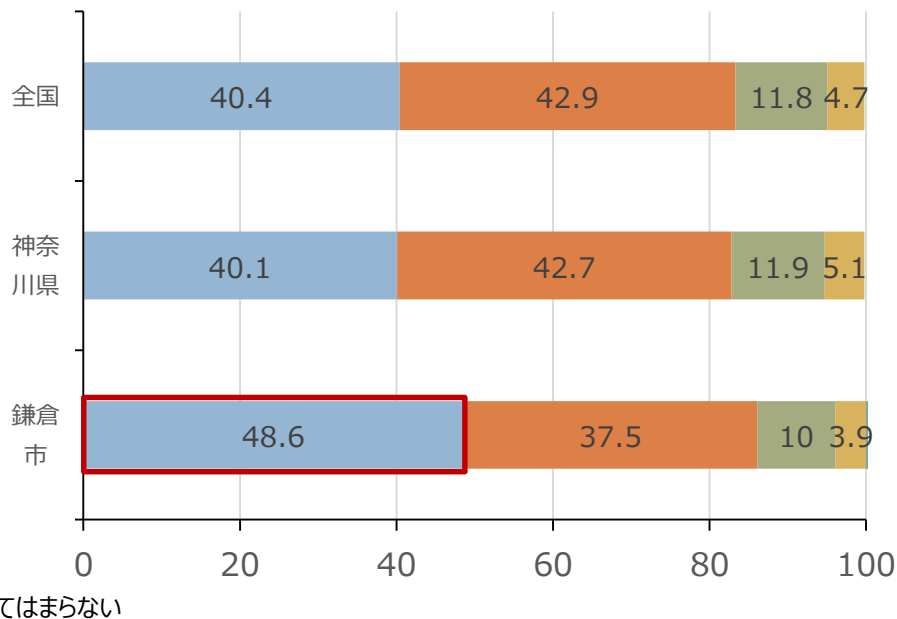
「自分にはよいところがある」と思う子ども（全国比較）

- 小中学校いずれも、「自分にはよいところがある」に対して「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は全国・神奈川県と比較して高い。

「自分にはよいところがある」と思う小学生の割合（％）



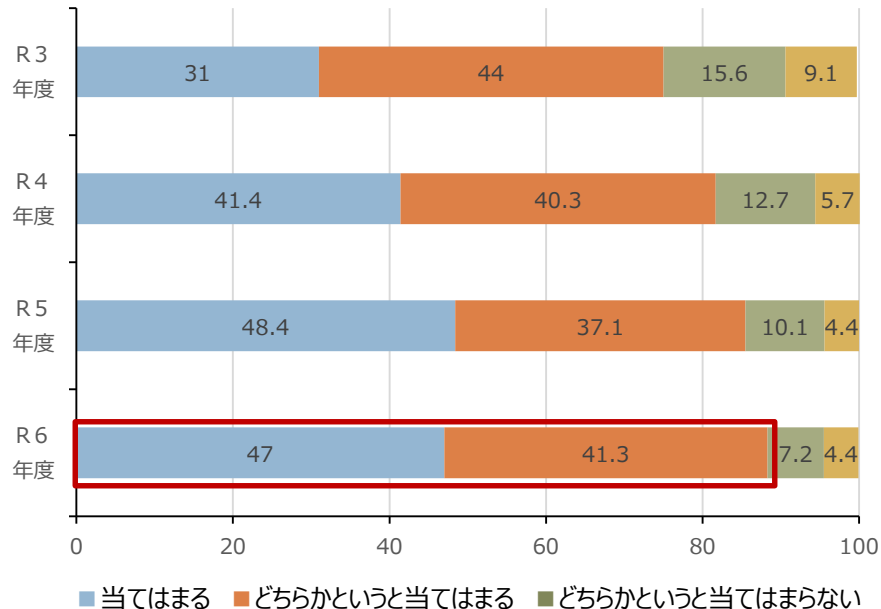
「自分にはよいところがある」と思う中学生の割合（％）



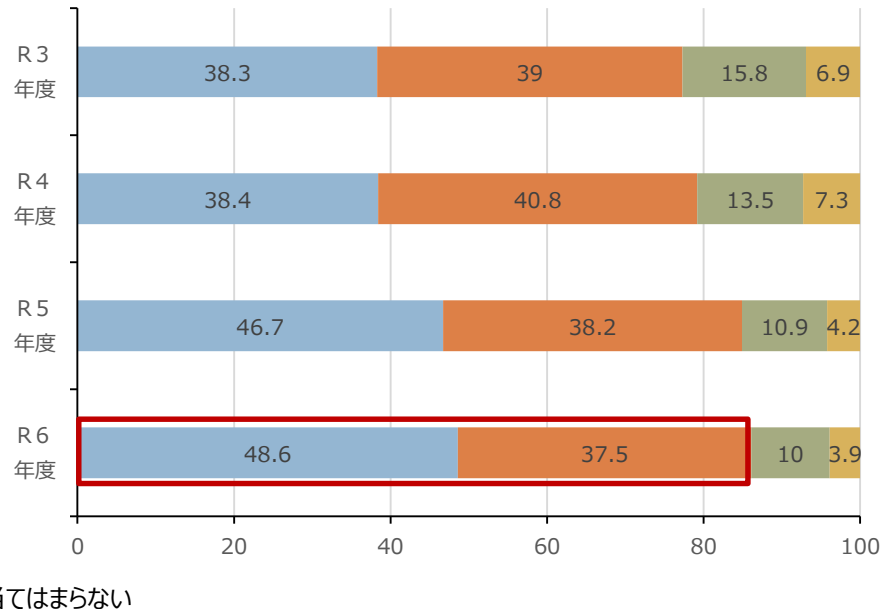
「自分にはよいところがある」と思う子どもの割合（経年比較）

- 「自分にはよいところがある」に対して「当てはまる」「どちらかという当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、高まっている。引き続き自己肯定感の向上につながる指導に努めたい。

「自分にはよいところがある」と思う小学生の割合（%）



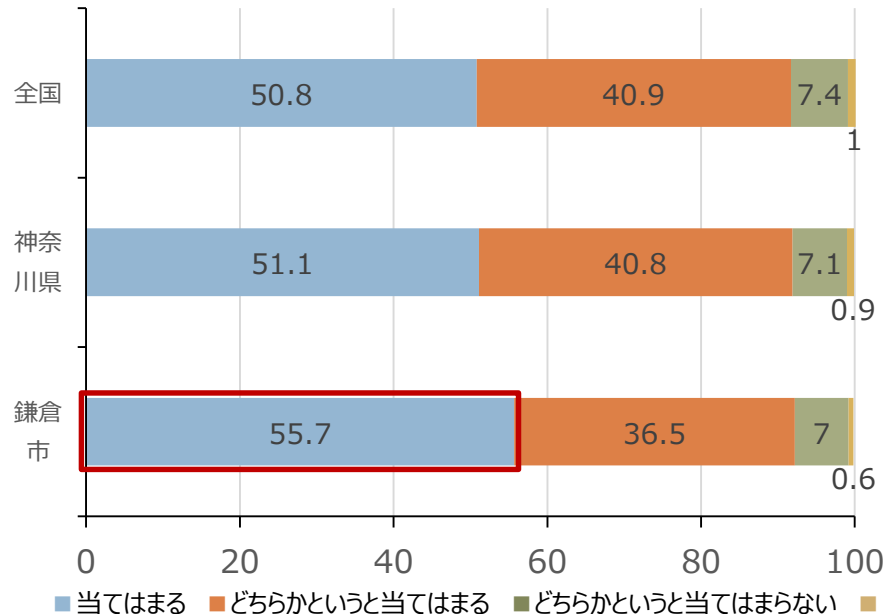
「自分にはよいところがある」と思う中学生の割合（%）



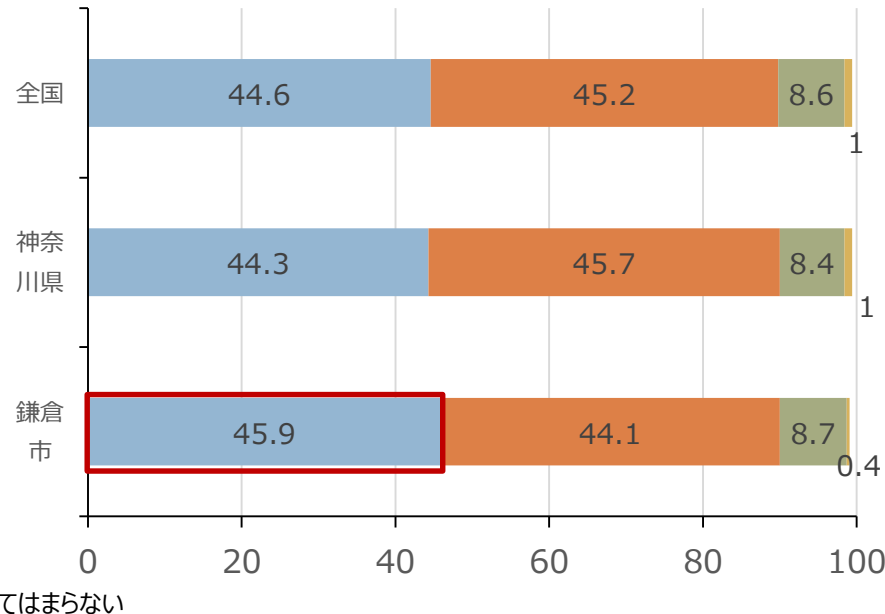
普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがあると答える子ども

- 「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、全国及び神奈川県回答割合よりも高い点
が特徴。引き続き家庭と協力しながら児童生徒が幸せな生活を送れるよう支援してい
きたい。

あると回答した児童の割合（％）（小学生）



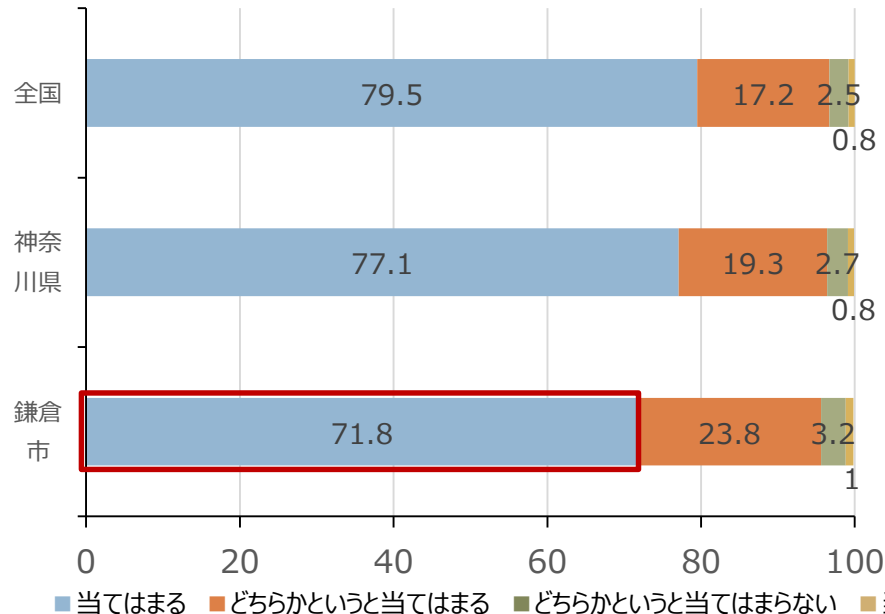
あると回答した生徒の割合（％）（中学生）



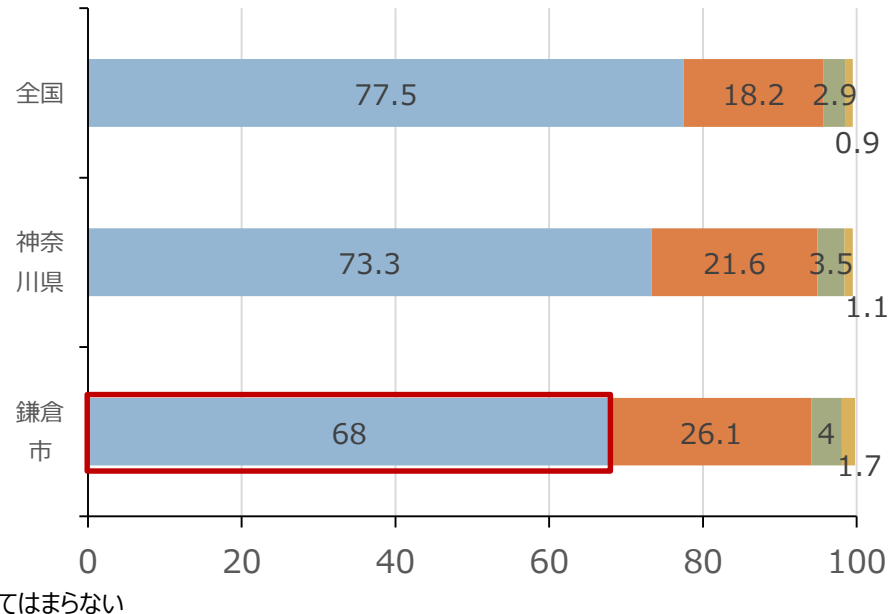
いじめはどんな理由があってもいけないと答える子ども

- 「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、全国及び神奈川県回答割合よりも低い点
が特徴。人権や思いやりについての指導をさらに丁寧に行っていく必要がある。

いけないと回答した児童の割合（％）（小学生）



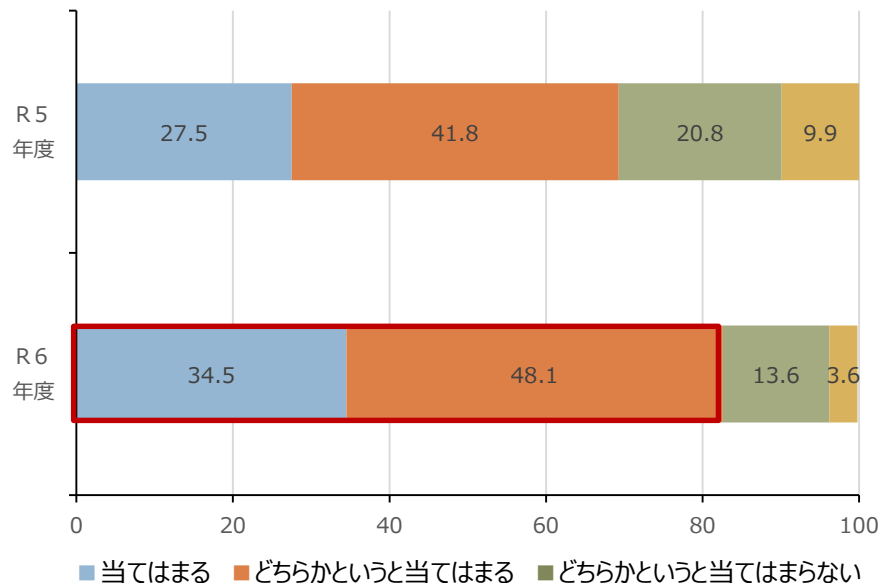
いけないと回答した生徒の割合（％）（中学生）



「地域や社会に貢献したい」と思う子どもの割合（経年比較）

- 「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思うか」に対して「当てはまる」「どちらかという」と当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、高まっている。引き続き地域に関する理解を深め、地域社会の一員として主体的に活動できる力を育む指導に努めたい。

「地域や社会に貢献したい」と思う小学生の割合（%）



「地域や社会に貢献したい」と思う中学生の割合（%）

